政治・宗教思想研究会／関西神学塾

連続講座の案内

グループホームでの自然死の看取りに、訪問看護師が果たした重要な役割とは？

日　時　2026年6月26日（金）午後6時～8時

場　所　西宮公同教会　集会室

〒662-0834　西宮市南昭和町10－22
0798－67－4691
阪急西宮北口駅より　徒歩3分

講　師　三浦（みうら）　耕吉郎（こうきちろう）　先生

参加費　500円

三浦　耕吉郎

1956年、山口県生まれ。
関西学院大学名誉教授。
専門は、生活史、差別問題、環境社会学、質的調査法。

皆さんは、訪問看護師さんについて、どんなイメージをお持ちでしょうか。この研究を行っていくなかで、私にとっての訪問看護師イメージは、目まぐるしく変わりましたし、また非常に多様な役割を果たされていることが、だんだんとわかってきました。

そのきっかけとなったのが、父が亡くなった三か月後に訪れたグループホームで管理者の方から伺った、「（お父様の）自然死での看取りに対して、訪問看護師さんが入ってから、とくに落ち着けるようになりましたよね、私たち（ホームの職員）も……」という裏話を聞かせていただいたことでした。

それまで私は、訪問看護師さんは、急性期病院に勤める父の主治医と同様に、自然死に対してはネガティブな立場をとりがちだとずっと思い込んでいたので、これはちょっとした衝撃でした。

今回の講座では、前回講座の最後に課題としてあげた〈終末期医療（在宅医療、緩和医療）との連携〉という観点から、訪問看護師の役割を中心にすえつつ、グループホームでの父の看取りのプロセスを振り返っていきたいと思います。

主催：関西神学塾
協力：障害児・者情報センター
問合せ：西宮公同教会
西宮市南昭和町 10-22
TEL：0798-67-4691
MAIL：koudou@gamma.ocn.ne.jp